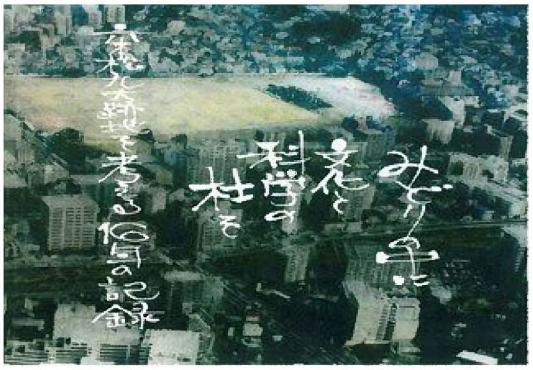
発行元
新建築家技術者集団
福岡支部事務局
〒815-0041
福岡市南区野間 3-9-20-4F
[ケイ・プラッツ内]
Tel/Fax 092-541-8128
HP；shinken-fukuoka.net

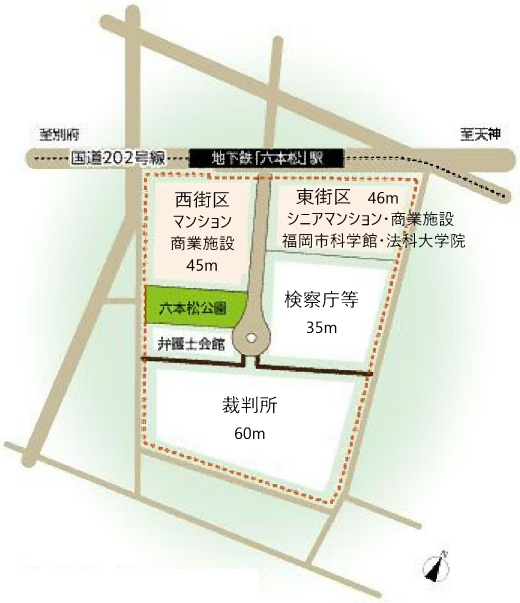
6/30

6月例会「六本松九大跡地を考える –16年の記録-」報告と座談

語り手・案内：嶽村久美子氏、川内俊彦氏　　場所：六本松九大跡地・木香庵



九州大学六本松キャンパスの新キャンパスへの移転に伴う跡地活用を考える市民運動の16年に亘る活動を総括した「六本松九大跡地を考える16年の記録」が2016年に出版された。新建会員である徳永行生氏と川内俊彦氏の2名も精力的に関わったが、新建福岡支部としては組織としての意思統一ができず、これに関わる事ができなかった。その反省を込めて、この運動のリーダーであった嶽村久美子（六本松を考える会代表）氏に、再開発された現地（一部工事中）を案内しながら、16年の活動を振り返り、その教訓を語ってもらった。会場は跡地に隣接する「木香庵」、参加者は14名でした。徳永行生氏は病気療養のため参加できなかったが、川内俊彦氏も同席した。報告の後は打ち解けた懇親会に移行した。



九州大学が新キャンパスへの移転を決定したのが1991年、2005年に移転を完了した。「九大跡地を緑と文化の杜に」という願いで市民運動が立ち上がったのが2000年であった。九大は跡地利用を福岡市に丸投げし、福岡市は利用計画を都市再生機構（UR）に委託した。嶽村氏ら市民運動側は九大、福岡市、URとの交渉を余儀なくされた。結局、6.5haの敷地は南半分が法曹関係（裁判所、検察庁、弁護士会館）、南半分がJRによるシニアマンション、商業施設など複合施設、マンションで埋められ、「緑と文化の杜」にはほど遠いが、粘り強い運動が下記のような多くの成果を上げた。

1．建物の高さ制限を商業施設でありながら100mから60m以下にさせた
2．緑化率を30%以上にさせた
3．危険な道路計画を変更させた
4．32種350本の樹木と希少価値の草花を保存させた
5．敷地内に10m幅の遊歩道を確保した
6．敷地周辺に樹木を活用した公園を設置し、憩いの場とした
7．旧制福岡高等学校の記念碑「青陵の泉」の碑を設置し
8．少年科学文化会館の移転を活用し、300席のホールを持った科学館を設置した

諦めないことが運動の教訓である。市民運動は今も継続し、これまでの成果を活かして、まちづくりに取り組んでいる。

（報告：新谷肇一）

5/9・30　7/11・25

木造連続講座「設計・現場で頑張る建築士のための木造講習会」

講師：川崎薫　　場所：アミカス　視聴覚室

川崎さんの連続講座は人気で、各回 36～37 名の参加があり、会員外の参加の方が半数を占めました。第２回、第４回終了後に行なった懇親会への参加も多く、この連続講座をきっかけに３名の方が入会しました。

「在来軸組工法住宅の設計手法」をテキストにした勉強会を、著者である川崎先生本人に講師になっていただき、5 月 2 回、7 月 2 回、計 4 回、新建福岡主催で行なわれました。私はその内の 3 回(5 月 1 回、7 月 2 回)に、参加する事ができました。

テキストに沿って、内容を噛み砕いて、実例とユーモアを交えながら、時々脱線もしながらの勉強会で、非常に楽しく学ばせていただきました。

今回のテキストは、バインダー式になっている為、勉強会中も「このページは、川崎構造のホームページからダウンロードして差し替えて下さい。」や「(ホームページからダウンロードして)資料追加しておいて下さい。」と言った事が多々ありました。更新や追加が容易で、自ら作ったメモや別な物から抜粋した資料を差し込む事ができるので、使う本人にとって、よりわかりやすい、使いやすい物に進化させる事ができます。

勉強会終了後の懇親会にも多くの方が参加されており、木造以外の構造を主に扱う設計事務所の方、弁護士さん、審査機関の方と様々な方々と交流する事ができ、こちらも楽しいひとときでした。今後も、今回のような勉強会(懇親会も含め)を定期的に(不定期でも年数回)行っていただけると、うれしいです。

(報告：大野幸代)

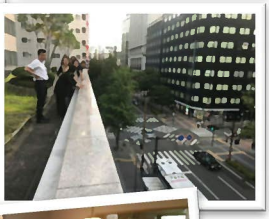
熊本地震で被災し、実際に事務所全壊という経験をしました。倒壊しない安全な設計の重要性を痛感し、構造・地盤の知識を高めたいと思い、講座に参加させていただく事になりました。

建築基準法でうたわれている木構造の基本的な法律は理解しているつもりで参加いたしましたが、この基本的な法律は私が理解していた事より、もうひとつ深いところをおさえておかなければいけないというポイントをかみくだいて教えていただき、沢山の知識を得る事ができました。

川崎先生の分かりやすい講座のお陰で、お恥ずかしいですが基本中の基本が理解できました。現在の案件にも適用しております、貴重な講習会・テキストありがとうございました。　　(報告：田尻貴裕)

来夏に向けて準備どんどん進んでいます！～建まちセミナー2019 in 福岡～

ＴM3～6 の成果　決まったこと



① 開催日程
　2019 年 7 月 12 日(金)～14 日(日)
　博多祇園山笠の熱気を一番感じてもらえる最良の時期！

② セミナー会場
　九州大学西新プラザ

③ 山笠見学
　巻口さんの職場の屋上に面する明治通りで「集団山見せ」が行なわれる時間、この屋上に案内。特等席での見学確保！

④ ５枠のセミナー
　TM5・6 で意見を出し合い、お話をお願いしたい講師、日時（時間割）が決定。さっそく、講師の方のスケジュールも確保！

⑤ ホテル
　山笠の時期に行なうことの不安材料は宿泊のことでしたが、旅行代理店の方のご尽力で、あまり高くない宿泊先を確保！

全くの０スタートでしたが、現在３～４割程度まで進みました。まだまだ楽しめる余地がありますので、出席されたことのない方もお待ちしています！

7/22 九州北部豪雨災害と第 60 回自治体学校の報告

主催：自治体学校実行委員会　　場所：西南学院大学

昨年の九州北部豪雨災害は豪雨災害の新たな「線状降水帯」（線上に並んだ積乱雲によって長時間同じ場所で豪雨が降り続く）によって大災害がもたらされた。今年の西日本豪雨大災害も同じ現象で今般は広域な範囲で起きた。毎年めぐる梅雨時期、その対応が迫られる日本列島の状況である。

今般第 60 回自治体学校が初めて本島から、九州は福岡で「憲法をくらしにいかす地方自治」のテーマで 7 月 21～23 日開催され、新建福岡も 5 人の会員がおり、今般実行委員の加わり準備段階から参画。大会ではナイター企画に参画し、九州北部豪雨「災害の実態と復旧の現状」のテーマで地元でもあり、会員である片井新建福岡代表幹事がパーポイントで発表。特に西南学院大学の新しい教室での発表であり、画面が大きく、鮮明な画像に全国からの 35 名の参加者は熱心に聞き入った。多くの参加者から質問や、意見が出、当会のメンバーでもある多賀先生らも問いに関して応答され、限られた時間の中で意見が飛び交い、有意義な集まりとなった。

特に、九州北部豪雨による災害は大量の集中豪雨による山の斜面の土砂の崩壊による土砂流出の山津波の現象は新しい災害で興味を引いた。とりわけ今般の水害は一級河川の本流の筑後川に流れる赤石川等の支流の河川の越水、堤防の崩壊が災害の大きな要因であり、支流の防災対策が今日大きな課題となった。今年起きた西日本豪雨災害も九州北部豪雨災害が大規模化したもので、倉敷に見られる本流の一級河川高梁川への支流の堤防崩壊が大災害をもたらし、河川管理の在り方に大きな問題を投げかけることになった。なお、自治体学校の新建福岡からの参加者は部分参加も含め 8 名でした。　　（報告：古川博）

発表に先がけて 7 月 9 日、「水害後 1 年目の調査」に朝倉市・東峰村を新建メンバーでまわり、当日は学生ホールに報告パネルを展示し、多くの人に見てもらいました。

6/1～3 建築とまちづくりセミナー2018 in 北海道に参加

参加：多賀夫妻、矢野、渋田、大坪、江藤、巻口、片井　計 8 名

第 1 講座　北海道の住まい「高断熱・高気密から外断熱へ」、第 2 講座　小樽運河の保存活動と今、第 3 講座　まちを支える「場」と「人づくり」～江別市での活動、第 4 講座　積雪寒冷地である北海道の「防災まちづくり」について　という一見北海道限定の課題のようですが、どの講座も全国で応用できるものを含み、勉強になりました。

参加者は延べ 90 名で、少な目でしたが、資金集めを積極的に行い、財政的には余裕をもった開催となったようです。北海道支部の皆さんは、準備段階から積極的に参加され、セミナー開催が北海道支部の活性化に大きく寄与したと思われます。

2 日の夜には、大交流会がサッポロビール園で行われ、ジンギスカンと出来立てビールに舌鼓を鳴らながら、来年の福岡セミナーへの参加を呼びかけました。その後は、すすきので大阪や京都支部のメンバーと深夜までの交流が続きました。

前泊の小樽や余市での街並み見学、ライラックの香り溢れる大通公園の散策などに感激し、来年の福岡セミナーに向けて多くの示唆と情報をいただいて帰途につきました。

9 月 6 日に発生した、北海道胆振東部地震は広範囲に大きな被害を出しています。セミナーの第 4 講座では、極寒の避難所で段ボールを使い生活する方法などを実験しながらの報告でした。また、セミナーで実行委員長を務めた石原さんは自治体の幹部であり、地震直後から不眠不休で対応に当たられています。一日も早い復興を願いたいと思います。　　（報告：片井克美）

9/16・17

西日本ブロック会議 in 大阪に参加してきました

参加：片井、大坪、鹿瀬島、古川学　　計４名

初日の会議の前には、大阪支部の皆さんのご案内により、梅田周辺の大規模再開発の状況や、中之島公園での保存運動、それらに関わる新建の活動等について教えていただきました。さらに、船場周辺で保存・活用されている魅力的な近代建築群を案内していただきました。

会議がはじまると、ブロック会議の趣旨説明や自己紹介の後に支部活動の報告があり、現状の課題やその対策等について話し合われました。福岡支部から、活発な支部活動について報告された際には、各支部の皆さんからも熱心な質問があがるなど、新建活動の継承・活性化といった課題は、全支部の共通テーマとなっていると感じました。

２日目には、岡山支部から西日本豪雨災害に関する報告が、大阪支部からは大阪地震や台風被害に関する報告があり、被災地支援の呼び掛けも行われました。また、会員数の減少や高齢化により、活動の継続が困難な支部があるといった課題に対し、近隣の支部との共同イベントの企画、事務作業等の共有による効率化など、ブロック会議ならではの様々な提案・議論がなされました。

番外編としては、初日の懇親会にて、大阪支部の伴さんから、早い・安い・高性能なセルフビルド可能な住宅「グランダウス」の開発について、プロトタイプである実作の作成風景をふくめたプレゼンなどもありました。

個人的には、２日間の会議や懇親会の場を通して、各支部の熱意溢れる会員の皆さんや様々な活動、そしてその成果の歴史にも触れることができ、新建の奥深さを体感させていただきました。また、支部の枠を越えた今後の西日本ブロックの活動に期待しつつ、自身を含めた福岡支部の活動もさらに楽しみになってきた、そんな２日間でした。

（報告：古川学）

風のいろ　（第一話）

小形　ひさみ

「東南の角部屋ですから、日差しは申し分ありませんよ。」

福岡の中心地に近いわりには、空も広い。

不動産屋の若い女性担当者の説明を背中に聞きながら、小林のり子は東に面した出窓の方へゆっくりと歩いて行った。

９階のこの部屋から、南に中学校の校庭、東は路地を挟んで二軒のマンションが迫っている。そのマンションの谷間に瓦屋根の二階家があって、かろうじてその抜けた空からは朝日が望めるかもしれない。ホッとして小さく呼吸を整えた。

今まで住んでいた一軒家は、郊外の住宅地で、家のどの方向の窓からも光と木々の緑が飛び込んできていたから、生まれて初めてマンションで暮らすことを決めてから、半分、部屋からの景色を諦めていたのり子にとっては、嬉しい誤算だった。ゆっくり確かめるように、目を遠くへ移していくと、見覚えのある建物で目が止まった。

「まだ、壊されずに残っていたんだ。」

一瞬、そのビルの５階の窓に人影が映ったように見えた。

四十年ぶりにこの街に戻って来た。

のり子には、拓二が呼んだ、そう思えてならなかった。

１９７２年３月、のり子は春というにはまだ風の冷たい、デンマークのカストラップ空港に降りたっていた。

「コンニチハ。コバヤシサンですか。トムセンです。」

一年前に留学を決めてから、母校の短大の教授から親日家のデンマーク女性の紹介をされていた。のり子が目指していたインテリアカレッジを卒業し、日本が好きで長期滞在を含め数回来日している。

「お迎えいただいて、ありがとうございます。」

コペンハーゲン市庁舎の近くにある、KFUK（YWCA）に、３日間滞在したのり子は、目指すインテリアカレッジの入学試験が行われる７月まで生活する、外国人も受け入れている全寮制のインターナショナル　ピープルズカレッジのある町、ヘルシンガーへ向かった。

これから一年間、この国で生きていく。

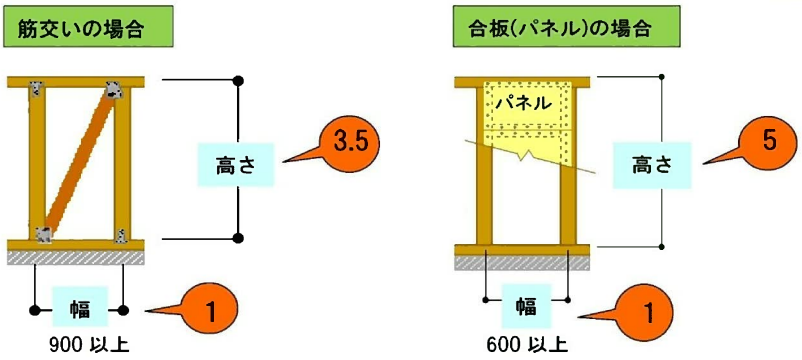
列車の窓ガラスに、黒い瞳が小さくうなずいていた。

つづく

川崎さんの 日本で一番わかりやすい 木造住宅(4号建物)の構造設計 4

昨年５月に出版した「在来軸組工法住宅の設計手法」より、皆さんの実務に役立つトピックスを抜粋してお届けします。今回は耐力壁について。

耐力壁の「幅：高さ」比は、 筋交い１：3.5　合板１：5



幅：高さ比　1：3.5 以下を目処

幅：高さ比　1：5 以下を目処

耐力壁の高さが高くなると(筋交い角度が 起き上がってくると)剛性が小さくなるため、「幅：高さ」比の目安が示されています。さらに筋交いの場合は、幅が大きくなりすぎると筋交いの長さが長くなり、座屈を生じやすくなるため注意が必要です。

(株式会社川﨑構造設計　川﨑薫)

大牟田市庁舎本館の保存活用を考える取組み

大牟田市庁舎の耐震診断の結果が公表されたことを契機として、「大牟田市庁舎の整備手法」についての議論が始まり、大牟田市は市民アンケート、庁舎整備検討委員会の開催、市長との意見交換会を行い、ネット上でも庁舎整備検討委員会の摘録、シュミレーション結果報告書等を閲覧できるよう情報公開に努めました。市議会でも議会報告会を開催し、市民の意見を聞く機会を作ってきましたので、市庁舎の整備手法の動向を把握することができました。

５月に発足した庁舎整備検討委員会は会議を重ねて、10 月 3 日に大牟田市に対して答申が出されました。本館整備については、「改修して庁舎として利用する」と「庁舎として利用しない」が各５人と意見が割れて一本化することができず、両論併記になりました。最後に要望で、登録有形文化財である本館は維持や庁舎以外の用途での活用の可能性も検討してもらいたいと求めています。市は答申を受けて、2018 年度中に方針を決定するとしています。

私たちは新庁舎が建設されることになった時に、貴重な文化財である市庁舎本館が解体撤去されることを防ぐため、趣旨にご賛同下さる団体・個人の皆さまと連絡協議会を持ち、市庁舎本館の建物としての価値、歴史的な価値、景観としての価値、人々の記憶に残る価値、後世に伝える価値等を共に考え、市民の財産として活用する方策を考え、来年１月に、市民に広く呼びかけて「市役所本館の保存・活用を考える会(仮称)」の設立総会とシンポジウムを開く計画です。当面は次の事業案を予定しています。

① 市民から広く市役所の写真を集めて、11 月に写真展を開催
② 12 月に市庁舎本館(正廳･防空監視哨(屋上)･議事堂)の見学会開催
③ 1 月に保存･活用の市民組織の発足とシンポジウムの開催

[問合せ]　大牟田・荒尾炭鉱のまちファンクラブ理事　新建福岡幹事　新谷肇一　080-5273-4695

第３回山歩きレク～平尾台 貫山～ １１月１０日(土)に開催決定！

春に残念ながら雨天延期となった平尾台（貫山）を歩きます。春はオキナ草の見頃でしたが、秋はススキが見頃。これまでと同じく各自おかずを１品づつ持ち寄って山頂でランチパーティーを行います。

参加希望の方は、事務局までご連絡ください。

編集後記

早いもので 2018 年も 10 月となりました。前号以降初めは暑い夏でしたが一変して台風がいくつも日本各地を縦断し、北海道では地震も発生しました。被害に遭われた方々の一日も早い復興を祈念します。さて平成最後の新建福岡支部総会で配布される新建 NOW19 号は、活動報告にとどまらず小説の連載も始まるなど、今回も充実した内容です。福岡支部の幅広さと奥深さを改めて感じました。ありがとうございました。(巻口義人)

(原稿とりまとめ：巻口　レイアウト：月成)